

2019 年度学校評価レポート

【1】学校評価アンケート（子ども・保護者・教職員）結果

<1>上位項目と下位項目（子ども）

下学年 回答数 27 平均値 3.8

上学年 回答数 15 平均値 3.7

(1) 上位項目

40 項目中上位 20%にあたる 8 項目は次の通り

下学年			上学年		
自分	(9)自分(じぶん)は「やればできる」と思(おも)う。	4.67	自分	(7)日々の学習の計画を、自分で立てている。	4.33
自分	(8)自分(じぶん)は、大切(たいせつ)な存在(そんざい)だと思(おも)う。	4.63	自分	(10)この1年で、「自分は成長したな」と思う。	4.33
自分	(6)学(まな)ぶのに必要(ひつよう)な道具(どうぐ)は、自分(じぶん)でとりだし、つかったあとは自分でかたづけている。	4.48	他者	(1)年齢(ねんれい)のちがう人たちと同じ教室で学んでいることは、自分の学習にとって良いことだと思う。	4.33
世界	(13)自分(じぶん)の席(せき)でひとりで学(まな)んだり、ともだちといっしょに学んだり、サークルで話(はな)したりなど、一日(いちにち)の中(なか)でいろいろな学びかたがうまく組(く)みあわされている。	4.44	他者	(8)一人ひとりの意見が、クラスの中で大事にされている。	4.33
自分	(10)この1年(ねん)で、「自分(じぶん)は成長(せいちょう)したな」と思(おも)う。	4.41	世界	(3)学校の出来事や、世の中で起きている出来事から、いろいろなことを学んでいる。	4.33
自分	(7)毎日(まいにち)の学習(がくしゅう)の計画(けいかく)を、自分(じぶん)でたてている。	4.33	自分	(6)学(まな)ぶのに必要な道具は、自分で取り出し、使ったあとは自分で片付けている。	4.27
世界	(1)こまっている人(ひと)がいるときは、その人(ひと)の力(ちから)になろうとしている。	4.26	自分	(1)学校で、毎日自分が何をしなければならぬかをわかっている。	4.20
世界	(3)学校(がっこう)のできごとや、世の中(よのなか)でおきているできごとから、いろいろなことを学(まな)んでいる。	4.22	他者	(4)クラスのみんなは、自分が意見を言うときに聞いてくれる。	4.20

(2) 下位項目

40 項目中下位 20%にあたる 8 項目は次の通り (3.5 ポイント未満)

下学年			上学年		
世界	(7)学(まな)びのために校外(こうがい)に出(で)かけたり、ゲストをよんだりなどのイベントを、こどもたちで計画(けいかく)している。	2.59	世界	(7)学びのために校外に出かけたり、ゲストをよんだりなどのイベントを、子どもたちで計画している。	2.33
世界	(8)自分(じぶん)のクラスの中(なか)で、自分がまかされている役割(やくわり)がある。	2.67	世界	(6)自分たちの教室は、きちんとかたづけられていて、きれいな状態(じょうたい)になっている。	2.47
自分	(5)学習(がくしゅう)の答(こたえ)あわせや直(なお)しを、自分(じぶん)でしている。	2.85	自分	(11)自分が残(のこ)したいなど思った学習の記録を、ポートフォリオに毎週残すことができる。	2.80
世界	(9)ブロックアワーで学(まな)んだことと、ワールドオリエンテーションで学んだことが、つながっていると感(かん)じる。	3.22	世界	(9)ブロックアワーで学んだことと、ワールドオリエンテーションで学んだことが、つながっていると感(かん)じる。	3.00
世界	(6)自分(じぶん)たちの教室(きょうしつ)は、きちんとかたづけられていて、きれいな状態(じょうたい)になっている。	3.33	自分	(13)「わたしプレゼン」では、自分がだれかに聞いてほしいことや伝えたいことを話すことができた。	3.07
他者	(9)自分(じぶん)が知(し)りたいと思(おも)ったことやふしぎに思(おも)ったことは、クラスのみんな、またはともだちのだれかに伝(つた)えている。	3.37	世界	(8)自分のクラスの中で、自分がまかされている役割(やくわり)がある。	3.13
他者	(6)クラスのルールは、みんなで決(き)めている。	3.44	世界	(15)グループリーダーと話し合いながら、自分の学びの計画を作ることができる。	3.13
			自分	(4)グループリーダーの学習についての説明(インストラクション)を受けるかどうか自分で選ぶことができる。	3.40
			世界	(11)新聞を読んだりニュースを見たりして、世の中の動きに興味(きょうみ)を持っている。	3.40
			世界	(17)自分が学んだことを、だれかに発表することができる。	3.40

<2>上位項目と下位項目（保護者）

保護者 回答数 34 平均値 3.46

(1) 上位項目

72 項目中上位 10 項目（ただし同ポイントのものがあるため 13 項目ある）は次の通り
オレンジの文字で示したものは、教職員の上位項目と一致するもの

他者	a すべての子どもは、異なる3学年の子どもたちから成るファミリー・グループ(クラス)に属している。	4.64
他者	f 子どもたちは、他の年齢の子どもたち、異性の子どもたち、他の関心をもっている子どもたち、などと一緒に学んでいる。	4.52
他者	e 子どもたちは、学年に関わらずファミリー・グループ(クラス)の一員として認められている。	4.36
自分	c 学校は、一人一人の子どもがそれぞれ自分なりに発達する権利を認めている。	4.30
自分	b 子どもたちは、自分自身を大切に思っている。	4.09
世界	b 子どもたちは、グループリーダーの信頼を得ており、グループリーダーも子どもたちの信頼を得ている。	4.09
世界	c 子どもたちは、誰か他の人に向けて発表することを学んでいる。	4.00
自分	c 子どもたちが、自分の得意なことをしたり、それを人に見せることのできる環境が整っている。	3.97
自分	e それぞれの子どもの成長は、その子の独自の可能性という観点から話し合われている。	3.97
他者	b 子どもたちは、お互いから何かを学び、お互いに何かを教え、また、お互いに一緒に何かを学んでいる。	3.91
世界	e 子どもたちは、自分で発見したり、実験したり、探究したりしている。	3.91
世界	d 子どもたちは、自分たちが学んだことを共に祝ったり共有し合ったりしている(催している)。	3.91
世界	f どの子どもも、自分で決めたテーマの研究に取り組むことができる。	3.91

(2) 下位項目

72 項目中上位 10 項目は次の通り

オレンジの文字で示したものは、教職員の下位項目と一致するもの

世界	c 子どもたちは、遠足や、ゲストの招待などのイベントを企画している。	2.55
世界	f 子どもたちは、ファミリー・グループ(クラス)の中の様々な事務的な仕事にも積極的に関わっている。	2.64
自分	d 毎日評価が行われる(たとえば、評価サークルなど)。	2.73
世界	b 子どもたちは、教科学習の目標を理解している。すなわち、子どもたちは、なぜそれを学ばなければならないのか、そこで学んだことはどのように使えるのかを知っている。	2.76
世界	b 子どもたちは、自分たちの学校のリビングルーム(教室)を、自分たちできれいに片づいて清潔な状態に保っている。	2.82

世界	d 子どもたちは、算数や国語などの教科学習で学んだことを、ワールドオリエンテーションに応用している。	2.85
世界	e 子どもたちは、学校の中や周りにいる動植物のケアをしている。	2.88
自分	a 子どもたちは、グループリーダーや他の子どもたちと共にポートフォリオを使って話し合いをしている。	2.91
世界	d ファミリー・グループ(クラス)では、使い捨ての精神をもたないようにしている。	2.94
自分	b 子どもたちは、学習の答え合わせや直しを、自分でしている。	2.97

<3>上位項目と下位項目（教職員）

教職員 回答数 12 平均値 3.79

(1) 上位項目

72 項目中下位 10 項目は次の通り

オレンジの文字で示したものは、保護者の上位項目と一致するもの

他者	a すべての子どもは、異なる3学年の子どもたちから成るファミリー・グループ(クラス)に属している。	5.00
他者	f 子どもたちは、他の年齢の子どもたち、異性の子どもたち、他の関心をもっている子どもたち、などと一緒に学んでいる。	4.83
他者	e 子どもたちは、学年に関わらずファミリー・グループ(クラス)の一員として認められている。	4.75
世界	c 子どもたちは、誰か他の人に向けて発表することを学んでいる。	4.58
他者	b 子どもたちの活動は、その時々によさわしい形で活動グループが決まる。	4.50
他者	b 子どもたちは、お互いから何かを学び、お互いに何かを教え、また、お互いに一緒に何かを学んでいる。	4.50
自分	c 子どもたちが、自分の得意なことをしたり、それを人に見せることのできる環境が整っている。	4.42
自分	c 学校は、一人一人の子どもがそれぞれ自分なりに発達する権利を認めている。	4.42
他者	e 子どもたちが、全員で物事を決める話し合いが行われている。	4.42
世界	c 小さな時事(ファミリー・グループや学校での出来事)と大きな時事(世界の出来事)が、子どもたちの学びや行動に影響を与えている。	4.42

(2) 下位項目

72 項目中下位 10 項目は次の通り

オレンジの文字で示したものは、保護者の下位項目と一致するもの

世界	c 子どもたちは、遠足や、ゲストの招待などのイベントを企画している。	2.83
世界	d ファミリー・グループ(クラス)では、使い捨ての精神をもたないようにしている。	2.83
世界	a 学習活動の長さは、時間で区切るというより、子どもたちの集中の度合いで決めている。	2.92

自分	c 子どもたちは、グループリーダーと保護者が行う懇談会に(部分的に)参加する機会をもっている。	3.00
自分	d 毎日評価が行われる(たとえば、評価サークルなど)。	3.00
自分	e 子どもたちは、豊かな選択肢から選んで学ぶことができる。	3.08
自分	c 子どもたちは、必要な道具を自分で取り出し、自分で片付けている。	3.08
自分	d 子どもたちは、誰からインストラクション(学習に関する説明)を受けるか自分で選択できる。必ずしもグループリーダーから受ける必要はない。	3.08
世界	a 子どもたちは、自分たちの学校のリビングルーム(教室)の中のもの配置や装飾などを、グループリーダーと共に自分たちで決めている。	3.08
世界	b 子どもたちは、自分たちの学校のリビングルーム(教室)を、自分たちできれいに片づいて清潔な状態に保っている。	3.08

【2】学校評価委員会(自己評価)による考察

学校評価委員会(自己評価) 3月11日実施

(1) 子どものアンケート結果について

- (上学年) 自分は片付けているけれども、教室は散らかっているというような結果になっている。学びの道具は準備できたけど、それ以外のことで散らかってしまっていたのかもしれない。
- (下学年) 自分はやればできると思ってくれているのがうれしい。
- どの学年において、自分の役割があるという点についての項目が低い。係活動・委員会活動の大日向バージョンがあるとよい。3月のクラブ活動や委員会に関する話し合いがきっかけとなるとよい。
- 子どもたちがゲストを呼ぶことや、ブロックアワーとワールドオリエンテーションのつながりについては低い結果になっている。来年度のカリキュラムづくりの際に生かすとともに、伝え続けていく必要がある。
- (上学年) 学びの計画はできているけれども、グループリーダーと話し合うより、自分でつくっていることがこの数値に表れているのではないか。
- 上学年は、「わたしプレゼン」の際に恥ずかしがって話さない傾向が見られる。先生たちがなに話してくれるのかなという思いが強かったのではないだろうか。自分で自分の学びを確認するところが足りていない。(自己評価やそのプレゼンテーションの)経験がなかったということもあり、見通しは持ちづらかったのかもしれない。下学年のほうがしっかり準備してプレゼンテーションに臨んでいたという傾向がある。
- (下学年) おとなが丸付けすることが多く、答えを出して自分で丸付けをするというのが進まなかった。基本的にどうしたらいいのかというのを決めておくといいかもしれない。大前提は自分でできるようになることだが、発達の状態も加味する必要はある。だんだん手放していけるとよい。丸付けは自分でしても、見ましたという確認の方法があるとよい。

【保護者】

- 子どもとも教職員ともかなりの項目一致している。特に振り返りに関しては不十分であった。ふりかえりの「いろいろな方法で」というところが難しいのではないか。サークルの中で「今日、どうだった？」を聞いていることも振り返りの機会である。
- 日常の評価については、ことばの捉え方によるところもある。（形成的評価は、日常的に行われているが、あまりそれを「評価」という呼び方をしてない。）
- 自己評価をする機会が少なかった。ブロックアワーの終わりにもサークルができれば、その日の終わりを確認し、何を学んだか、どんなことがうまくいってどんなことがうまくなかったかを振り返ることができる。
- 学習時間については、自分のタイミングが優先された。自分のタイミングで片付けることが多かった。時間でぶつと切るのではなく、ランチ前サークル5分前というように予告した上で、そこまで終わらせられるようにしようというのがよい。予告してから集めると、突然時間を切られることへの不満はない。個別であれば、自己評価してそれをためていくようにすれば、それぞれのペースが守られる。振り返りのためのサークルをつくる機会があるようで、意外と少なかった。
- オンラインでのブロックアワーの最後に「今日どうだった？」と聞けるのはよい試みである。

【教職員】

- 振り返りについて課題にあがっている。学年によって違うが、ポートフォリオは、グループリーダーとともに作れなかった。
- 「懇談会」は「わたしプレゼン」を指しているが、この言葉が学校で使われることがなく、それ以外のことだと思っていたため、適切な数値を選べていない。
- イベントの企画については、もっと子どもたちが臨むことを出発点に計画できれば良かった。修学旅行でそのスタートラインに立てた。
- 紙をもっと大事に使って欲しかった。
- 学びの環境づくりについてと、その環境の結果についての質問が混在しているため、適切に数値を選べていない。

【3】学校関係者評価

<1>保護者からの意見聴取 3月14日実施

(1) 学校生活全般に関する意見

- 自分も大切、他者も大切と感じる中で、ファミリーグループという感覚が養えたことは嬉しいことである。
- 喧嘩もするけれど実は仲が良いという関係性が見られ、実社会の関係性に近いと言える。
- 子どもの情緒の安定があるのことは安心できる。
- 自分の役割に名前が付いてないため、本当は役割を持って活動しているのに、自覚がない、実感が無いという課題がある。
- 自分の計画を立てていることの難しさを感じる。
- さまざまなことが、もっと自分事になるといい。

(2) 学習活動に関する意見

- ブロックアワーとワールドオリエンテーションのつながりがもっとあってほしい。
- ゲストはたくさん来てくださったが、それが単なるイベントみたいな感じで終わらせず、より全体の戦略が見えてくるようになると良い。点と点が網のように結ばれている感覚が出来て、もっとイェナプラン的な総合性が見えてきてもいいのではないかな。
- 上学年の子たちの、自分の意見や考えをグループの中で発表したり共有したりする力を身につけるために、どのようなガイダンスがなされていたのか、という疑問がある。
- 毎週金曜日の催しの際の子どもたちの笑顔はよかった。金曜日を活かす工夫が必要。言葉だけでなく、音楽や劇で表現するというのも考えてみてはどうか。
- 学習に関してはこのままでいいのかなという不安もある。前進は伝わるので、もっと見えやすいといい。

(3) 評価に関する意見

- 毎日の評価がどのように行われているのかについて知りたい。
- 「わたしプレゼン」(半期に1回の評価面談)を良い面をたくさん共有してもらっている。それらが、本人に日々伝えられているかを知りたい。

(4) 評価アンケート自体に関する意見

- 子ども向けのアンケートのプロセスは、もっと違う方法も考えられたのではないかな。こども同士でアンケートするなど、多様な方法が考えられるのではないかな。
- 子ども用のものは、ことばが難しい。ことばの意味がちゃんと理解されているか、また、どれくらい正しく答えられているのか心配がある。
- 「子どもたちは」という主語になっているので、子どもによって違うので答えられない、決めきれずほとんど真ん中の評価になるし、その評価が正しいかどうか分からないという課題がある。

- ほとんど良い評価であったが、良くない評価に関しては、なぜそのような評価なのか、どのように解決すればよいかについて、議論できればいい。
- 「子どもたちは」という主語になっているので、子どもによって違うので答えられない、決めきれずほとんど真ん中の評価になるし、その評価が正しいかどうか分からないという課題がある。

<2>地域の方からの評価

アンケート・意見聴取は 2020 年 3 月実施

(1) 総評

大半の方から、大日向小学校が開校したこと意義のあることであり、地域にとってよい影響があったと回答してくれている。

課題や期待についてのコメントからも、時間がかかっても地域の学校に育ってほしいという思いが感じられる。

(2) 課題と期待についてのコメント

本校に関する課題、として

- 少子高齢化の時代に、若い子どもたちやその親たちとの交流があり元気をもらえる。自分はどんどん歳をとっていくので、いろんなイベントへの参加は苦勞になってくる。
- 理念を実践に落とし込む作業は大変なことと思う。「産みの苦しみ」の時期が続くと思うが、教職員や保護者と協力して良い学校を作ってほしい。
- 入学決定後移住までの期間が限られ、町内の住まいの選択肢が少ない中、少しでも多くの方に町内に住んでもらうために、出来るだけ早い段階から入学検討者と接点を持ち関係を築く必要がある。

今後、本校に期待すること、として

- 水害、新型コロナウイルス、オリンピックの延期など、どんどん不景気気味であるが、子どもたちの明るい声で、大日向に少しでも活気を吹き込んでほしい。
- イエナプラン教育の良さや課題を発信していただき、地域の教育、日本の教育に貢献してほしい。
- 子どもたちの将来、社会にとって大切な、自分で深く考えること、他者を思いやることが養われる教育が実践されようとする大日向小学校に非常に期待している。
- 時間はかかると思うが、地域に人にとっても、みんなの学校になってほしい。
- 今後、新たな移住者よりも在校生の方が多くなる中で、地域に愛着を持ち、第二のふるさとと感じてくれる子どもや保護者が増えることを期待する。
- これまで町にいなかった多様なスキルを持った方がいるので、そのような方の地域での活躍を期待する。

【4】 第三者評価

(1) 実施時期

2020年3月30日に実施

(2) 第三者評価委員からの意見

- ・4月以降、間をおいて（子どもたちの様子を）みると、徐々に関係性が築かれてきているのが見て取れる。また、グループリーダーが、焦らず、徐々に時間をかけながら進んでいる様子がよく分かる。
- ・3月の臨時休校後、オンラインでの学習の様子も見たが、ブロックアワーの様子が自然であった。
- ・アンケートから、「子どもにとっての居場所」になっていることが、データ上表れていることは素晴らしい。
- ・アンケート内容は、生徒指導にも活用できる。
- ・子どもたちの自己肯定感については、ポジティブな内容が見て取れる。
- ・校長はじめ教職員が、地域との関係性を大事にしているのはとてもよいことである。閉鎖的な部分があるなか、もがきながら地域の中に根ざしていこうという姿勢が見られた。

以上